

JCO 臨界事故展示

展示主旨

JCO 臨界事故は、国内外の人々に大きな衝撃を与え、風評被害をもたらし、原子力への信頼を揺るがせた。しかし、その記憶もやがては薄れ消え去る。

この展示は、事故を真摯に見つめ、事故の実像を理解し、風化させず、二度と繰り返さぬための教訓にと企画されたものである。

JCO 臨界事故

この事故は、株式会社ジェー・シー・オー（JCO）東海事業所のウラン転換試験棟で発生した。当時、この建物では高速実験炉「常陽」の燃料原料となる濃縮度 18.8% のウランを硝酸に溶かし、均一にする作業が行われていた。

この作業に使用すべきでない沈殿槽と呼ばれる設備に、制限量を大幅に上回るウラン溶液を投入した結果、核分裂連鎖反応による放射線（中性子線およびガンマ線）が敷地外にまで放出され、このような状態が約 20 時間にわたって継続した。

この我が国初の臨界事故は、放射線被ばくによる 2 名の死者を出し、周辺住民の避難や屋内退避、深刻な風評被害をもたらした。

関係機関や専門家が協力して臨界を終息させたが、この事故を教訓として、その後、原子力災害対策特別措置法の制定や原子炉等規制法の改正など、原子力の安全確保のために、これまで以上に様々な対策がとられるようになった。

展示内容

■プロローグ

- 導入部解説/事故時の作業プロセス解説
- JCO 臨界事故の概要

「事故を二度と繰り返してはならない」という願いを示し、臨界事故が発生した作業場所や工程などの概要を紹介しています。

■事故の現場を知る

- 沈殿槽原寸模型装置
- JCO 臨界事故「解説映像」
- 解説「臨界とは・・・？」

臨界が発生した沈殿槽の模型を原寸で再現。解説映像により、臨界事故を正しく理解するための情報を提供しています。

■事故を検証する

- JCO 臨界事故ドキュメント
- 事故を検証する「資料映像」
- 解説「JCO 臨界事故における放射線被ばく量と影響」
- JCO 臨界事故 Q & A ファイル

臨界事故発生を基点として、事故当時の対応やその時々の問題点の推移など、克明な情報を時系列で理解できます。

■記憶を継承する

- 証言映像

JCO 臨界事故について、当時、事故対策本部を指揮した村長や風評被害を経験した農家、救急隊員として患者搬送に当たった消防署員などの証言を聞くことができます。

■安全確保を考える

- JCO 臨界事故の反省に立って ― 事故後の安全・防災対策 ―

事故によって得られた教訓、事故後の取り組みを踏まえた安全対策や防災対策などについて紹介しています。

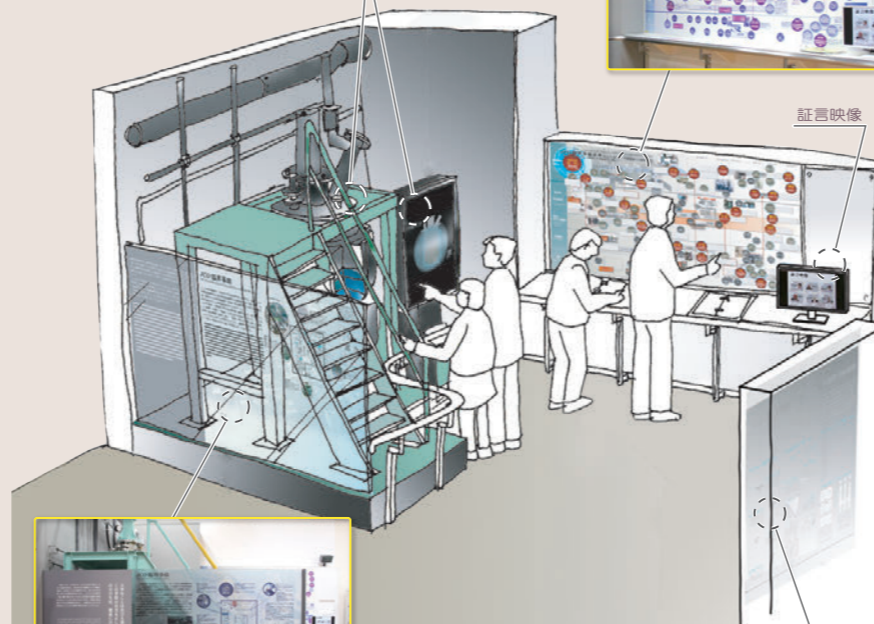
沈殿槽原寸模型装置/JCO 臨界事故「解説映像」



JCO 臨界事故ドキュメント



証言映像



導入部解説/事故時の作業プロセス解説

JCO 臨界事故の反省に立って

- 原子力科学館のご案内**
 - 開館時間 9:30 ~ 16:00
 - 入館料 無料
 - 休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）/ 年末年始

- 交通のご案内**
 - 常磐自動車道 東海スマートICより約10分 (5km)
 - 那珂ICより約30分 (14km)
 - 日立南太田ICより約20分 (8.5km)
 - 東水戸道路 ひたちなかICより約20分 (11km)
 - JR常磐線 「東海駅」下車 東口より茨城交通バス（茨城東病院行き、海浜公園西口行き）約10分「原研前」下車 徒歩2分

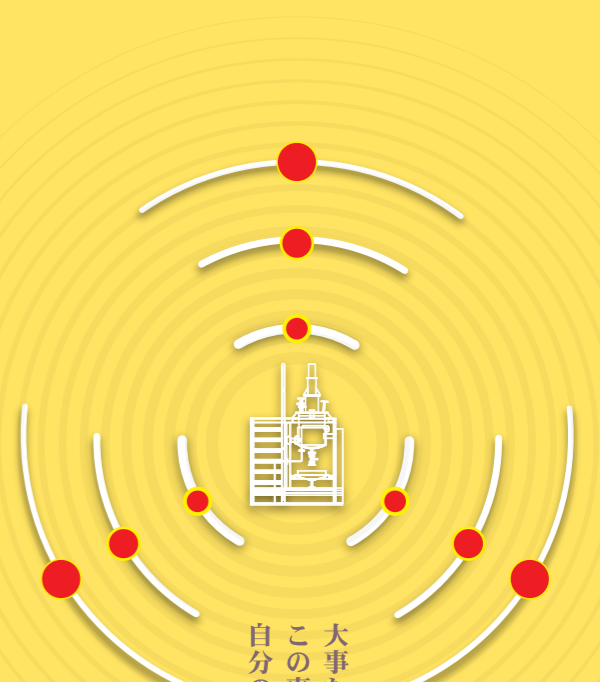
- 問合せ先**
 - 公益社団法人 茨城原子力協議会
 - 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松225-2
 - TEL : 029-282-3111
 - FAX : 029-283-0526

<http://www.ibagen.or.jp>



このパンフレットは、東海村が広報・調査等交付金により作成したものです。(R8.1)

JCO 臨界事故展示



大事なことはおびえ恐れることなく
この事故の真実を正しく理解し
自分の生活、健康に自信を持つことではないかと思えます。

（1999年10月30日付「広報とうかい」より）

